

## 学びのデザインシート（授業前）

### 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語科】

#### 1. 対象 聴覚障害 小学部4年生 2人

人工内耳、補聴器を装着しており、デジタル補聴援助システム（ロジャー）やキューサインを用いて授業を行っている。教師は口元が見えるよう、授業中透明マスクを使用している。

#### 2. 単元名「気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう」（全12時間）

教材名「ごんぎつね」

#### 3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。
思考力、判断力、表現力等	・文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。 ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。
学びに向かう力、人間性等	・叙述に着目して進んで物語を読んだり、感じたことや考えたことを伝え合おうとしたりしている。

#### 4. 本時の目標

- ・物語全体を通じて、ごんと兵十の気持ちの変化について考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。

#### 5. 授業展開【**本時**】・単元】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。

<b>解決したい課題や問い</b>
・うなずいた時のごんはどんな気持ちだろう。

<b>考えるための材料</b>	
・1～6場面ごと、ごんと兵十の気持ちの変化を考え、両者の心の距離を視覚的に示した図。	・ごんの気持ちの変化を捉えるための「ごん日記」の作成。
<b>想定される活動</b>	
・兵十のせいでごんが打たれてしまった。 ・なぜ兵十はごんを打ったのか。 ・兵十とごんとの間で、気持ちのすれ違いがある。 ・ごんの気持ちは場面ごとに変化している。 ・ごんは兵十のことを思っているが、兵十は心の距離が遠いまま。 ・兵十はごんを打ってしまって、どんな気持ちか。 ・最後の場面で兵十の心の距離が近づいた。	・ごんになりきって、場面ごとの日記を書く。 ・ごんの気持ちや教科書には出てこない台詞も考える。 ・場面ごと、印象に残ったシーンの絵を描く。

### 対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

少人数であることと児童2人の実態から、意図する対話の深まりに繋げることは難しい。そのため児童はそれぞれの考えや意見、感想を発表し、その時に教師が仲立ちし、お互いの考えの違いはどこか、もしくは同じ部分はどこか注目できるようにする。

- ・児童の発表を板書することで、お互いの意見の相違点がはっきりとしてくる。
- ・自分がなぜそのように考えたのかを説明しようとするが、うまく言葉にすることができない。
- ・自分の考えの根拠を説明することが難しい。「理由は・・・分かりません。」「なんとなく。」
- ・教師の板書や教科書を何度も見直す。
- ・友達との意見が異なる場合、友達がなぜそのように考えたのかが分からない。
- ・教師が細かい問いかけを重ねそれに答えることで、自分の意見の根拠がはっきりとしてくる。

### 学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・学習していく中で、気持ちの変化について自分なりに考えることができる。
- ・友達の意見を聞き、その意見を参考にして自分の意見をさらに深く思考することができる。
- ・教科書の叙述に注目して自分の意見を考えることができる。